

NPO法人 熊本まちなみトラスト  
第34回理事会(191028)出欠表

氏名	理事会 191028 出欠	出席 人数	委任 出席 人数	祝賀会 出席 人数
1 青木勝士	○			○
2 麻生田栄壽	○			○
3 伊藤重剛	○			○
4 磯田桂史				
5 磯田節子	×			
6 岡裕二	× 理事長			×
7 工藤栄一郎				
8 幸田亮一	× 事務局長			×
9 西郷正浩	○			○
10 柴田祐	× 理事長			×
11 竹田宏司	○			○
12 田中尚人				
13 鄭 一止(いるじ)	× 事務局長			×
14 辻 泰明	○			○
15 豊永信博	○			○
16 長野聖二	○			○
17 西嶋公一	×			×
18 富士川一裕	○			○
19 藤本秀子	○			○
20 松波大仁	○			○
21 宮野桂輔	○			○
22 宮本茂史				
23 矢野和之	× 理事長			×
24 山田穰	○			○
25 吉野徹朗				
1 荒木幸介	×			×
2 齊藤修	×			×
会員(コア会員)				
1 本田憲之助				
2 森 純子	×			×
3 両角光男	○			○
4 上野美恵子				
5 上農淑子	○			○
6 清水照親				
7 坂口秀二				
8 西島衛治				
9 西島真理子				○
10 早川祐三				
11 松崎範子				
12 清永泰弘				
13 古賀元也				
14 濱田康成				
15 中田浩毅				
16 東久美子				
17 伊原登志郎				
18 石原靖也				
19 佐々木翔多				
20 反後人美				
21 三國隆昌	○			○
22 池田由美				
23 黒瀬商店				
24 田中達俊	×			×
25 原野利一				
26 高田真人				
27 平山武久				
28 平山偵久				
29 中島淑子				
30 村上亜紀				
31 後藤環				
32 坂井亮太				
33 石橋雅子				
34 熊本ビル部				
35 加瀬島正剛				
36 田上裕				

◆前回(9/23)例会以降の経過  
KMT事務局会議【富士川・松波・菊池】  
9/25以降、10/2、10/16、10/23  
被連協清永部会(回)【磯田桂史・富士川】  
9/24(第95回)以降、10/1、10/8、10/15、10/23(第99回)

【旧住友部会報告】  
協議会は最後7/8(月)→次回は必要に応じて(非定例)  
PS工事竣工後カーリーノと合同イベントの企画  
9/25打合せ  
9/30はPS竣工内祝

【その他の報告】  
10/26太平洋島嶼国及びカリブ諸国の記者取材  
(公益法人フォーリン・プレスセンターからの依頼)  
10/28HC財団へ中間報告 【この資料P2】

KMT今後の予定  
まちづくり出前講座  
第1回:11/20 会場はいずれもPSオランジュリ  
第2回:12/17 【この資料P4】  
第3回:2020年2/4

サンカクドライブ:11/30 【この資料P6】

◆議決事項  
1 広報誌発行 の承認 【この資料P7】  
2 まちづくり出前講座 開催の承認

その他  
県大GP  
被連協アンケート  
福岡イベント

◆事務局長荒木精之賞受賞祝賀会  
19:30-21:30(例会/理事会の後)  
会場は びふれすイノベーションスタジオ  
参考資料 【この資料P10】

理事 13 13 (+委任状出席=>理事総数25)  
会員 3 4  
合計出席者 16 17

令和元( 2019 )年度「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」  
(住まい活動助成部門) 中間報告

団体名

NPO 法人 熊本まちなみトラスト

活動のテーマ

新町古町地区の復興まちづくり

9月までに達成できた事項(箇条書き)

- 1) アーカイブの作成
  - ① 復興タイムラインタイムライン (添付-1)
  - ② 復興工事記録写真 (添付-2)
  - ③ 個別の復興イベント記録 (別紙ビジュアル報告)
- 2) 被連協アンケート実施 (集計表: 添付-3)
- 3) 啓発活動と広報
  - ① 歴史を活かしたまちづくりシンポジウム (別紙ビジュアル報告)
  - ② 納涼カフェと子どもたす on the 明八橋 (別紙ビジュアル報告)
  - ③ 広報誌の発行 (11月初めに発行。原稿: 添付-4)

今後の活動予定と令和2年3月末時点の達成予定項目

- 1) アーカイブの作成
  - ① 復興タイムラインタイムラインの完成
  - ② 復興工事記録写真の完成
  - ③ 今後の個別の復興イベント記録の作成
    - a. JSURP 出前講座 (3回)
    - b. 近代化遺産保存シンポジウム (仮称) イベント記録作成
- 2) 被連協継承組織の結成
- 3) 啓発活動と広報
  - ① JSURP 出前講座実施 (3回)
  - ② 近代化遺産保存シンポジウム (仮称) イベント実施
  - ③ 広報誌の発行
- 4) 各種団体との連携強化活動  
熊本大学、熊本県立大学、崇城大学、熊本学園大学、熊本建築士会、熊本商工会議所など

①	②	③	追加 支援	活用 開発	地域 連携	地域 連携	地元 連携	文化 価値	他 域 連 携	活 性 化	歴 ま ち	他 分 野	課題	希望活動
1.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	KMTにはお世話になり、ありがたい。 文化財価値を損なわず修復するのは大変、費用も莫大で不安。	若い世代の活躍に期待したい。 支援に感謝。個人ではできなかった。 歴史を感じさせまらづくり（建物、商売、考え方…発見のあるまちづくり）
2.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4.	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
5.	×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	公費解体が解体を促進した側面があり、望ましい在り方を国交省に提言したい。	
6.	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	関係者にはお世話になり、ありがたい。	
7.	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	関係者にはお世話になり、ありがたい。	
8.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	登録有形文化財に認定された。指導をお願いしたい。	
9.	×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	経営・生活基盤の確立	新しいもの、古いもの、それぞれの良さを発見・発掘し発信する。
10.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①空家・空地対策、②後継者育成・引継、③地域文化遺産発掘、利活用、保存	事務局の努力に感謝。東日本大震災の復興にも8年かかった。息の長い活動を。
11.	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
12.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13.				○	○	○	○	○	○	○	○	○	一定の役割を果たした。今後はまちづくり団体が中心となり、遺産所有者を神輿に乗せる。復活記念祭り、割引クーポン、振る舞い酒。	
14.	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	建物を維持していく費用	公的機関への支援要請
<b>34</b>	<b>64</b>	<b>32</b>	<b>4</b>	<b>7</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>9</b>	<b>7</b>	<b>4</b>		

①現状維持＋利活用 ②被災に限定しない文化財に範囲を広げる ③解散

\* ①～③の選択では1位を6点、2位を3点、3位を1点として集計した。

\* 方針の選択は○の数をカウントした。



地域主体のまちづくりを学ぶ  
Kumamoto town planning

# まちづくり出前講座 のご案内

日本都市計画家協会では、公益事業の一環として地域主体のまちづくりを普及する活動を進めています。全国的に見ても地域主体のまちづくりが活発で、平成28年熊本地震から3年が経過してこれからの復興まちづくりに取組もうとされている熊本市の新町古町地区で講座を開設することにいたしました。今回の「まちづくり出前講座」では、日頃まちづくりに関わっておられる方だけではなく、直接は関わっていないがまちづくりや城下町・新町古町に興味をお持ちの方など、様々な方を対象に第一部で講師のお話を聞いた後、第二部で質疑応答の時間を設けます。入場無料ですので、お気軽にご参加ください。

## 第1回講座 2019(令和元)年11月20日(水)18:30~20:00

テーマ:自分たちで進めるまちづくり(やさしい入門書をご用意します)

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

講 師:日本都市計画家協会理事 内山 征(テキスト「まちなかの活性化」執筆)

日本都市計画家協会理事 中川智之(テキスト「住宅地のマネジメント」執筆)

## 第2回講座 2019(令和元)年12月17日(火)18:30~20:00

テーマ:防災の観光化 観光の防災化

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

講 師:日本都市計画家協会理事 土肥英生(墨田区「防災ふるしき」発案者)

OGA DESIGN FARM 大鋸幸絵

## 第3回講座 2020(令和2)年2月4日(火)18:30~20:00

テーマ:歴史的環境の保全とまちづくり

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

講 師:たいとう歴史都市研究会 椎原昌子

**入場無料** 下記へお名前・連絡先をお申込みください  
定員50名で締切とさせていただきます

NPO 法人熊本まちなみトラスト

TEL 096-326-6611 / FAX 096-326-6612

Email : info@kumamoto-machinami-trust.org



会場のPSオランジュリは、「続く100年の為に」という標語を掲げ、社屋の震災復旧に取り組み2019年9月末に復旧工事が完了しました。

主催:認定 NPO 法人日本都市計画家協会 共催:NPO 法人熊本まちなみトラスト  
後援:熊本市/一新校区自治協議会/五福校区自治協議会

# 地域主体のまちづくりを学ぶ まちづくり出前講座

**第1回講座** 2019(令和元)年11月20日(水) 18:30~20:00

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

**テーマ:自分たちで進めるまちづくり(やさしい入門書をご用意します)**

まちなかの活性化、住宅地のマネジメントをテーマに、住民や商業者等の地域が主体となってまちづくりを進めるための考え方やコツをお話します。認定NPO法人日本都市計画家協会では、これらのまちづくりを推進するために「みんなのまちづくりNOTE」をつくりました。この内容に沿ってお話します。



#### 講師紹介

**内山 征**(うちやま すずむ)

株式会社アルメックVPI 執行役員  
認定NPO法人日本都市計画家協会理事  
コミュニティデザインを専門として、全国各地のまちなかの活性化等、地域を主体とするまちづくりのコンサルティングを行っている。



#### 講師紹介

**中川 智之**(なかがわ さとし)

株式会社アルテップ 代表取締役  
認定NPO法人日本都市計画家協会常務理事  
団地再生や密集市街地の改善、土地利用、景観まちづくり等を専門として、都市計画・まちづくりに関わるコンサルティングを行っている。

**第2回講座** 2019(令和元)年12月17日(火) 18:30~20:00

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

**テーマ:防災の観光化 観光の防災化**

墨田区北部地域の木造密集市街地において、空家を防火・耐震化改修し寄り合い所〜ふじのきさん家〜として再生し、これを核として防災・福祉・ものづくり活動を展開している事例を紹介いたします。大学・研究機関、地域包括支援センター、大学生のボランティア活動グループ、町内会、防災活動組織との連携により、多彩な活動を行っています。



#### 講師紹介

**土肥 英生**(どい ひでお)

(NPO)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊理事、  
(NPO)ア!安全・快適まちづくり理事、  
稲城市都市計画審議会会長、認定都市プランナー  
都市計画、中心市街地活性化、環境都市計画、都市防災、など、様々な領域の研究・調査、政策立案に係る。



#### 講師紹介

**大鋸 幸絵**(おおが さちえ)

NPO燃えない壊れないまち・すみだ支援隊  
防災観光ふるしきプロジェクト発起人  
東日本大震災後、キリン絆プロジェクトに参加し、防災活動に参加。現在は、地域に特化した防災啓蒙活動を日々模索中。

**第3回講座** 2020(令和2)年2月4日(火) 18:30~20:00

場 所:PSオランジュリ(中央区中唐人町)

**テーマ:歴史的環境の保全とまちづくり**

東京都台東区谷中(やなか)界隈では、過去30年間の間に、伝統的木造建造物が300棟あまり取り壊される中、地域の有志が30棟あまりの空き家修復・再生を行ってきました。まちじゅう展覧会でものづくりと生活文化の見える化を行ってきた「芸工展」や、カヤバ珈琲の再生などの実践の中から、歴史文化と防災安全、心の安らぎ(安寧)を両立して住み続けるための工夫が必要であることがわかってきました。伝統木造建造物を、活用事業や法制度で守り、残し、新たに造れることをお話できればと思います。



#### 講師紹介

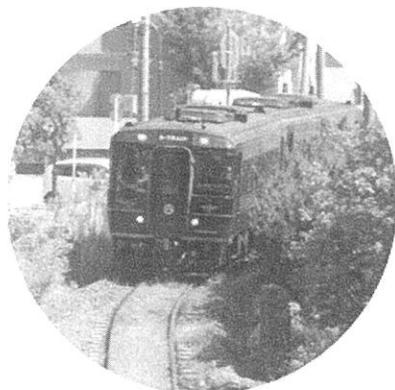
**椎原 昌子**(しいはら あきこ)

NPO法人たいとう歴史都市研究会 理事長  
株式会社まちあかり舎 取締役  
あたりアルス株式会社 代表取締役  
東京藝術大学 非常勤講師  
地域プランナー、技術士(建設部門 都市および地方計画)

東京藝術大学の学生時代より、谷中界隈の路地の聞き取り調査などに取り組み、1989年、まちづくりグループ「谷中学校」の立ち上げに参加。山手総合計画研究所にて地域計画・都市デザインに務めたのち、2000年より東京藝大大学院非常勤講師、2001年にNPO法人たいとう歴史都市研究会を設立。台東区、谷中界隈の歴史的建物とまちの生活文化を生かす活動を行う。

主催：NPO法人 熊本まちなみトラスト

# WE ♥ 三角線 「三角線開業120周年記念 歴史まち歩き」



サンカクドライブ LOVEキャンペーン

詳しく »

プライバシー  
利用規約

## ”サンカクドライブLOVEキャンペーン”

We ♥ 三角線 「三角線開業120周年記念歴史まち歩き」



2019年12月25日、三角線が開業120周年を迎えます。

春のキャンペーンで「三角東港歴史まち歩き」を主催した熊本まちなみトラストが、三角線の歴史をめぐる約7キロ（三角駅から波多浦駅、済生会みすみ病院などをめぐる特別コース）のまち歩きを特別に企画しました。

まち歩き後、参加者での昼食会を予定しており、予約時に参加の有無をお聞きます（別料金）。

9:00 - 12:00 JST

📅 カレンダーに追加

会場 三角東港地区一帯

チケット

11/30 (土) (参加費500円 当日お支払い)

チケットを申し込む

会場住所

宇城市三角町三角浦159 日本

主催者

まちなみトラスト

フォロワー数: 1

NPO 法人設立から2年、平成28年熊本地震からは3年が過ぎました。熊本まちなみトラストの活動状況を記録し広報します。20年以上活動している当団体の基本コンセプト「記憶の継承」を多くの人と共有することを目指して広報誌のタイトルを『つなぐ想い』としました。

## 目次

- 2019年会員総会＋シンポジウム開催／P2
- ワールド・モニュメント財団の支援／P4
- 復興イベント 明八橋で子どもタ市／P6
- 九州町並みゼミへの参加／P7
- 私の「記憶の継承」（青木勝士さん）／P8
- 会員近況（高田英子さん）／P9
- 2018（平成30）年度活動計算書／P10
- 2019（令和元）年度役員名簿／P11
- 2019（令和元）年度上半期の活動／P12

この冊子は HC 財団の助成を受けて刊行しています



毎月第4月曜日、熊本大学まちなみ工房で例会／理事会を開催し、NPO 活動の報告と方針が活発に議論される（写真は4月22日第27回理事会）

- |            |            |  |
|------------|------------|--|
| 2019（令和元）年 | 3月23日      | 九州町並みゼミに参加                               |
| 4月22日      | 第28回例会／理事会 | 4月28日 サンカドライブ（三角まち歩き）                    |
| 5月27日      | 第29回例会／理事会 | 5月18日 年次総会 2019＋シンポジウム<br>in 旧住友銀行熊本支店社屋 |
|            |            | 5月25日 HC 財団交流会 in 金沢に参加                  |
| 6月24日      | 第30回例会／理事会 |  |
| 7月22日      | 第31回例会／理事会 | 7月27日 山鹿建築士会視察対応                         |
| 8月26日      | 第32回例会／理事会 | 8月1日 シリア文化財関係者視察対応                       |
|            |            | 8月11日 復興イベント on the 明八橋                  |
| 9月23日      | 第33回例会／理事会 | 9月7日 全国まちづくり会議 in 東京パネル出展                |
|            |            | 9月10日 富士川事務局長荒木精之の授賞式                    |

熊本まちなみトラストでは、会員募集とともに事務局やイベント時のボランティアさんを募集しています。詳しくは下記までお電話、FAX、メールでお問い合わせください。

NPO法人熊本まちなみトラスト  
〒860-0078熊本中央区京町1-8-24  
株式会社人間都市研究所 内



電話096-326-6611 FAX096-326-6612  
E-mail: info@kumamoto-machinami-trust.org  
HP: kumamoto-machinami-trust.org

2019年 年次総会が開催されました  
2019（令和元）年5月18日 13:30～14:30  
会場は、昨年末（株）カーリーノが買取られた旧住友銀行熊本支店社



総会の後はシンポジウムが開催されました  
同会場で 15:00～16:30

歴史を活かしたまちづくりー旧住友銀行支店社屋の復活劇ー

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 基調講演 旧住友銀行熊本支店の建築的価値 | 伊藤重剛（熊本大学名誉教授） |
| 2 事例発表 大分銀行赤レンガ館の場合    | 三代吉彦（大分銀行）     |
| 旧第一銀行熊本支店の場合           | 平山武久（株）PS社長    |
| 3 買取られた所有者の思い          | 馬場英治（株）カーリーノ社長 |
| 4 意見交換コーディネーター         | 竹田宏司（KMT副理事長）  |
| 5 まとめ                  |                |

主催 NPO 法人熊本まちなみトラスト（略称KMT）  
後援 五福校区自治協議会／新校区自治協議会  
くまもと新町古町復興プロジェクト  
日本建築学会九州支部歴史意匠委員会  
被災文化遺産所有者等連絡協議会  
熊本市現代美術館

すぐ近くの先進事例であるPSオランジュリーの平山社長と大分市で歴史的建造物の再生・活用に取組む大分銀行の三代さんから興味深い事例報告をいただきました。



平山社長から「復旧工事竣工後の復興イベントと一緒にやりましょう」というエールを馬場社長に



予想をはるかに超える80名の参加者を得て、活発な意見交換ができました

## 2018年度事業報告と決算報告（第1号議案）

収支の大半がWMF（ワールド・モニュメント財団）からの収入と支援金の支出であり震災復旧という特別の決算となりました。

## 2019年度事業計画と予算（第2号議案）

復旧から復興への過渡期となる年度の予算編成です。未確定の補助金収入を含む経済的には不安定な運営見通しになりました。

## 定款変更に関する議決（第3号議案）

NPO法の改正に伴い、決算の広告をHP（ホームページ）で行うことにしました（定款53条）。また、会費の一部改正をしました（附則）。

## 運営基盤の強化に関する議決（第4号議案）

財政基盤を安定させるために、法人会員の増強と委託業務受託の道を開くことを決議しました。

議事終了後、部会報告もおこなわれました。



左から馬場社長、平山社長、三代さん、伊藤理事長・・・馬場社長抱負を語られる一幕



近くで居酒屋を営み「新町古町復興プロジェクト」代表の上村元三さんも熱い想いを語られた

熊本まちなみトラストは、2017年7月にWMF（ワールド・モメント財団）とパートナーシップ契約を結び、中唐人町と西唐人町の歴史的建造物5軒の震災復旧工事の支援を行っています。この支援策の19年が最後となり、復旧工事が終盤となったPS オランジュリと清永本店の現場をご紹介します。

※ワールドモメント財団とは・・・1965年に設立されニューヨークに本部を置く非営利民間組織。国や文化の枠を超え、世界各地で政府などの公的組織及び民間のパートナーと協力し、世界120カ国以上の国々の歴史的建造物などの文化遺産を保護・保存する活動を行っている。



WMFは、右の5軒の復旧工事費の支援が行なわれた  
(写真は地震前の写真です)

4



工事用足場に「続く100年の為に」という標語が掲げられた

### PS オランジュリ

煉瓦造という特殊な構造（大正8年建造）のために復旧工事には日本イコモス国内委員会をはじめ多くの専門家の支援を必要とした。

2019-03-29 赤煉瓦の基礎に鉄筋コンクリートで補強工事



### 清永本店

清永本店は江戸期から続く大商家であり、間口6間奥行きはオモテの店から奥の仏間まで15間に及ぶ母屋と2つの蔵を持つ（母屋は明治11年建造）。熊本地震では全壊し復旧困難と思われたが、1年8ヶ月の検討を経て再生の道を選ばれた。



2019-04-02 屋根工事



2019-07-02 心光寺路地壁面工事

5

熊本地震復興イベント HC 財団の助成を受けて実施しました  
納涼カフェとこどもタ市 on the 明八橋  
2019（令和元）年8月11日（日）17:00-19:30



坪井川上流から明八橋を望む



お盆前の猛暑の中、近隣の家族連れを中心に300人近くの参加者があった。一新校区と五福校区に合計3,250枚の新聞折込チラシを配布したが、両校区以外からも20～30人ほどの入込があった。

6



子ども向けの遊び、大鯛どっこい、射的、ヨーヨー釣り、スーパーボール掏いを用意したので子どもたちは大はしゃぎでした。暗くなって花火も少し楽しみました。カフェでは大人たちもビール片手に話がはずんだ。復興イベントであり、近くの復旧工事現場の案内も予定していましたが、お知らせに手が回らなかったこともあり参加者8人と振るいませんでした。

九州町並みゼミ in 臼杵  
に参加しました  
2019-03-23

全国町並み保存連盟九州沖縄  
ブロックの主催 今回が第6回



臼杵市観光交流プラザでのシンポジウム



二王座歴史の道 まち歩き

8

7

私が2012年に熊本まちなみトラストの活動に参加して7年を迎えた。  
小学生であった1981年頃から私は土蔵造りや商家造りの建物やそれが連なる街並みが大好きであった。1987年に大学入学のために横浜へ移動してからは、大内宿(福島県)、妻籠宿・海野宿(長野県)などの宿場町や篠野・出石(兵庫県)、白石(宮城県)、弘前(青森県)などの城下町を、バイク代をつぎ込み、旅して実見した。壁下町や宿場町の名残を残す熊本や津軽(阿蘇市)・小川(宇城市)と比較しては、屋根や壁の材質や意匠の違いを見て、各地固有の風土や歴史的背景を考えるきっかけになった。

その技術や風景に価値を見出す私は、それらを未来の子孫たちに伝える支援を文化財保護で実現するために学芸員を目指し、1994年に熊本に帰郷して公務員に就いた。そしてトラストに加入した。

しかし、その思想も伝えたい風景も変化したのが2016年の平成28年熊本地震だ。これを境に私は「記憶の継承」を強く意識した。

地震で自宅も職場も屋内が崩壊した。城下町の名残を残した新町古町地区(熊本市)の町屋も軒並み破壊または崩壊した。そして公費解体が進んだ。2017年までの1年間で西南戦争後の復興以来の140年間の風景が一変した。1889年の熊本地震と1945年の熊本空襲に耐えた建物は、2000年代に進行した無住化と老朽化に耐えることはできなかった。耐えても所有者の高齢化と後継担い手の不足が解体を後押しした。これは田辺・川尻・沼津津(熊本市)、木山(益城町)でも同様であった。所有者の高齢化と古建築の耐用年数の超過は、全国的な課題でもあった。

被災後の6月～9月に古町の西村邸(熊本市景観重要建造物)に熊本まちなみトラストが設置した「新町古町復興プロジェクト現地事務所」に始めては、所有者の方のご相談に与った。私の専門の古文書学を生かして動産の史料についてもご相談に与った。他方、熊本県立図書館職員、熊本被災資料ネットワークの一員としても被災後の史料保全のご相談に与った。

この経験を介して文化財保護とは唯物的に建物や古文書などの対象物を残すのではなく、それらを残してきた所有者のお気持ちや立場に寄り添い、一緒に考え、専門家として助言し、所有者の求めに応じた提案をすることにあることに気づいた。所有者のご先祖様に敬意を持ち、所有者と共に記憶を継承し、伴走者の立場で所有者と共に考えた結果として、建物や史料が残るのではなかろうか。それが文化財保護ではないかと考える。さらに個々の記憶を集積し、アーカイブ化することで街の記憶となり、歴史は紡がれて継承されていくのではなかろうか。目指す文化財保護の形を「記憶の継承」というキーワードで強く意識したのが被災後の私であり、機会を与えてくれたのがトラストであった。



青木勝士  
(熊本まちなみトラスト理事)  
熊本県・熊本県立大学地域連携政策センター  
／日本中世史(古文書)

東京生活4年目、パワフル5人家族、そして6人へ。

2016年春、熊本地震の2週間前、11年間お世話になった熊本県立大学の務めを終え、東京に転居しました。私たち家族の東京生活は熊本地震の時間の流れとともにあります。新宿から普通電車で20分ほどの我が家周辺は、緑多し、時に、富士山が遠景に見えます。周辺にいくつもある街区公園には、子どもたちの元気な声があふれ、週末には乳幼児を遊ばせるお父さんの姿をたくさん見かけます。最寄りの駅を核に、東西南北の通り沿いに商店街が広がり、肉屋、魚屋、八百屋、靴屋、スポーツ用品店、文房具店、花屋、米屋、お茶屋等々の個人商店が並んでいます。我が家は、マイカーを手放したので近隣生活はすべてを徒歩と自転車。これぞまさに「コンパクトシティ」を体感しています。忙しいフルタイム職から自由に時間を使える立場となり、小学校のPTAの委員や地域行事に積極的に参加すると、仕事と家の往復では知り合えなかった方々と出会い、私の小さな世界が広がりました。仕事のアンテナは、意識して他分野、他業種の方々と議論を重ねてきました。これまでの経験や専門性を軸にしながらも自由に活動しよう決めてから、10年前からの夫の計画でもあった会社を設立し、私は自分の専門性から参画しています(株式会社ヒンメル・コンサルティング <https://www.tenki-saita.com/>)。2019年春から、中央大学法学部で都市政策の授業で教壇に戻り、新しい現場での活動が始まりました。

大学を退職することはもちろん、3人の子どもを産むなど私の人生のシナリオにはまっぴらなものでしたが、2018年4月、私は44歳で3人目の男児を出産しました。三男坊は私たち家族にたくさんの愛を運んで来てくれました。気力体力勝負の日々ですが、何気ない日常が一番の幸せです。5人家族には手狭になった賃貸マンション暮らしでしたが、この愛着ある同じ界隈に、素敵なオーナーさんとの出会いがあり、築25年の中古戸建を購入、多少のリノベーションをし、6月に転居しました。住宅を見て回っていた数か月は、東京の(日本の)深刻な住事情を痛感すると同時に、「家族とは」と深く考えるきっかけになりました。そして、我が家は、11月から6人家族になります!長崎市で独居の母(78歳)が同居のため転居してきます。いくつかのガン細胞と共生しつつも、向上心、好奇心あふれる母は東京生活がとても楽しみのようです。兄家族や母の実妹家族も近くに関東圏にいるので、皆で支え合う、迷惑をかけ合う生活体験(笑)。そう遠くない未来には、育児と介護のダブルケアが待っているかもしれませんが、何事も経験、すべてを人生のネタに楽しみたいと思っています。



近所の児童館で秋祭り開催

法人名: NPO法人 熊本まちなみトラスト

第2期 活動計算書

平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月 31日 まで (単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	205,000	
賛助会員受取会費	10,000	215,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	45,000	45,000
3. 受取助成金等		
受取民間助成金 ※1	28,325,046	28,325,046
4. 事業収益		
A事業収益(被災2周年イベント)	0	
B事業収益(地域連携支援)	1,524,710	
C事業収益(新町古町・歴史的建造物)	0	
D事業収益(記録の作成)	0	
E事業収益(三角地区)	4,000	1,528,710
5. その他収益		
受取利息	27	27
経常収益計		30,113,783
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	0	
臨時雇い賃金	0	
法定福利費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
印刷製本費	7,048	
修繕費	0	
旅費交通費	43,533	
消耗品費	1,101	
通信運搬費	46,475	
雑費	4,933	
支払手数料	6,966	
研修費	45,000	
修復支援金(WMF)	26,491,140	
外注費	102,600	
機材費	219,024	
水道光熱費	0	
地代家賃	0	
会議費	0	
修繕支援金(寄付金)	1,444,710	
その他の経費計	28,412,530	
事業費計		28,412,530
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	601,500	
役員報酬	0	
法定福利費	0	
人件費計	601,500	
(2) その他経費		
旅費交通費	103,807	
通信運搬費	18,075	
印刷製本費	50,100	
消耗品費	12,110	
機材費	225,504	
研修費	1,000	
地代家賃	600,000	
外注費	0	
会議費	0	
雑費	52,612	
諸会費	10,000	
租税公課	1,250	
支払手数料	5,776	
その他の経費計	1,080,234	
管理費計		1,681,734
経常費用計		30,094,264
当期正味財産増減額		19,519
前期繰越正味財産額		400,292
次期繰越正味財産額		419,811

2019(令和元)年度役員名簿

役職名	氏名	プロフィール
理事	青木 勝士	県庁・熊本県立大学地域連携政策センター／日本中世史(古文書)／被災史料レスキューネットワーク参画
理事	麻生田 栄壽	不動産鑑定士／熊本県鑑定士協会会長時代に協会の公益社団法人化に尽力／趣味はバイク、車
理事	伊藤 重剛	熊本大学名誉教授／専門は西洋建築史／地震後ワールド・モニュメント財団申請に尽力
理事長	磯田 桂史	熊本大学五高記念館客員教授／公務員退職後崇城大学に勤務し、熊本の近代建築史に取り組み
理事	磯田 節子	元熊本高等専門学校教授／専門は都市計画・建築計画／熊本初のコーポラティブ住宅に参画し住む
理事	岡 裕二	助ワークス主宰／専門は地理学／まちづくりコンサルタントとして各地の調査・計画に参画／川尻在住
理事	工藤 栄一郎	西南学院大学商学部教授／専門は会計学・会計史／新町古町で現代の町屋に暮す
理事	幸田 亮一	熊本学園大学商学部教授／専門は経営史／現在同大学長／共編著「熊本の近代化遺産」出版に尽力
理事	西郷 正浩	崇城大学工学部教授／専門は建築設計・計画／旧JR上熊本駅舎の保存に尽力
理事	柴田 祐	熊本県立大学環境共生学部教授／専門は農村計画・景観計画／熊本地震後益城町西原村等で活動
理事	竹田 宏司	専門は埋蔵文化財／現在五名市勤務／熊本地震後新町古町復興プロジェクトに参画
副理事長	田中 尚人	熊本大学熊本創生推進機構准教授／土木史・景観論／熊本地震後益城町・山都町等で活動
理事	鄭 一止	熊本県立大学准教授／専門は都市計画・まちづくり／新町古町のまち再生のための調査研究実施中
理事	辻 泰明	熊本大学で熊本地震総合調査に従事／水前寺や宇城市三角町で地域遺産を活かした地域活動に参画
理事	豊永 信博	熊本市役所勤務時代は合併推進に尽力／地震後県内各地を調査・活動／中心市街地の復興にも尽力
理事	長野 聖二	建築家／アートボリス推進賞等受賞多数／事務所は河原町／地震後新町古町復興プロジェクトに参画
理事	富士川 一裕	都市計画家／熊本人間都市研究所代表／まちなみトラスト事務局長／新町古町復興プロジェクト副代表
理事	藤本 秀子	熊本大学五高記念館勤務／まちなみトラストの前身古町研究会事務局／草月流の華道歴も長い
理事	松波 大仁	現役時代は企業の経営企画・営業部門で海外担当／英国駐在経験有／業務システム設計・改革を経験
理事	宮野 桂輔	高木富士川計画事務所勤務／小沢町の事務所と住まいが激しく被災／新町古町復興プロジェクトに参画
理事	宮本 茂史	新町の建設会社勤務／新町古町・町屋研究会会長／地震後新町古町の町屋の復旧に尽力
理事	矢野 和之	日本イコモス国内委員会事務局長／地震後調査団を組織し県内各地を調査しすばやくアピール文を公表
理事	山田 稜	元東海大学准教授／専門は都市計画・造形デザイン／昨夏の復興事務所運営に尽力
理事	吉野 徹朗	カメラマン、ライター、web制作／吹き出しスタッフと新町古町復興プロジェクトを立ち上げ現在事務局長
理事	齊藤 修	弁護士／事務所は草葉町／任意団体設立当初から当団体を支援
監事	荒木 幸介	公認会計士／事務所は新屋敷／任意団体設立当初から当団体を支援

## 1. 人の記憶

30 年位前、エピソード記憶という言葉が話題になりました。コンピューターの記憶は、記憶装置に番地を付けてしまわれているのに対して、人の記憶はエピソードと一緒に脳の中にしまわれている、すなわち人は記憶と一緒にその時の状況を覚えている、ということです。認知症が話題になったのもこのころで、認知症の臨床にもエピソードが使われました。

しかし、どうでしょう今、ディープラーニングやAIに進化したコンピューターは、エピソードと一緒に記憶することなど軽くこなすようになっていきます。人の能力は変わらないのですが、コンピューターはどんどん進化してきて、「人の記憶」を再定義する時代がやってきました。

実は、30 年前のさらに 30 年前、すなわち今から 60 年前ごろのコンピューターは計算をするための機械と考えられており、人の記憶と比較されたりすることはありませんでした。ただ、パターン認識というように認識する能力を比較することはありました。

さて、現在、進化したコンピューターとの比較や生命工学の知見を参照すると、記憶とはどうも「脳の中でつくられる回路である」ということのようにです。つまり、人の記憶とは過去の情報の蓄積ではなく、過去のことに限らず人が何かをイメージする時に脳内で瞬時につくられる回路がすなわち記憶であることのようにです。さらに、そのような回路は体のほかの器官も総動員してつくられるらしいのです。人の記憶とは人の意識そのものと言ってもいいようです。

## 2. 都市の遺伝子

30 年位前、1986 年に熊本で都市計画事務所をしたあと 5~6 年経った時期で、所員も増えてきて仕事が本格化してきた時期でした。中でも中心市街地の活性化はその後久留米、大牟田、佐賀、佐世保、諫早、大村、佐伯、熊本、山鹿、玉名等の九州の諸都市と関わることとなりますが、そのころは県内の人吉、水俣で全国市街地再開発協会から仕事を請けたりしていました。

そんななかで、私はよく都市をリンゴにたとえることがありました。リンゴを二つに切った断面を都市に見立てますと、中心市街地はリンゴの芯のようなもので、芯には種があり種は次の生命を再生する遺伝子を持っています。中心市街地には、ハードすなわち店や公共空間のなかに、ソフトすなわち祭や制度のなかに都市の文化が蓄積されています。都市が持続可能であるためには

都市の遺伝子を持つ中心市街地が必要である、ということをリンゴにたとえて解説していましたが、リンゴの芯にたとえた中心市街地のことを都市のコアすなわち核と呼ぶこともありました。

### 3. コンサベーション（保存）とリノベーション（再生）

私の事務所が最盛期を過ぎた 15 年くらい前から、再開発に替ってリノベーションの仕事をするようになりました。きっかけはたまたま熊本まちなみトラストが都市再生モデル事業として取組んだ、空き店舗化した河原町繊維問屋街に若いクリエイター達を誘致した河原町プロジェクトです。2003 年のことでしたので、今から 16 年前ですが、先進事例として全国に紹介されました。続いて、著しい衰退に見舞われた大牟田市中心市街地。実は過去に再開発事業に失敗し、しばらくは近づけないでいたのですが 10 年ほど経ってほとぼりが冷めたので今度は、再開発ではなくリノベーションを手伝わないかというお声が掛かりました。話を聞くと、河原町を視察・研究されており同様の手法で老朽化した空き店舗に若い営業者を誘致したい、については大牟田の地元の不動産会社や工務店の若い経営者たちとコラボしてほしいという市と商工会議所からの依頼でした。

大牟田の若い人たちとのコラボレーションは刺激的なプロジェクトとなりました。彼らは老朽化して空き店舗だらけになった商店街を昭和のにおいのするビンテージ感満載の街の資源だと言うのです。集まった仲間で行う店舗の改装作業は DIY リノベと称しました。空き店舗の見学会、共同作業の大掃除、大家さんも参加しての提案発表会、名乗りを上げた空き店舗入居希望者の面接、大家さんとの賃貸条件の調整、商工会議所専門員による指導と融資相談、工務店と DIY リノベの調整等が商店街の中の一番目立つ場所にあった 2 つの空き店舗で進められました。

そもそも私が再開発の分野に参入した当初から再開発と歴史的環境の保存はシームレスにつながった手法であり、リニューアルはその中間にある手法と位置づけていたのですが、大牟田で若い人たちから教わったことは多かったです。その一つは、一見惨めな空き店舗だがその場所やその佇まいに魅力を感じ活用ビジョンを持つことでその惨めな空き店舗に新しい価値を見出したり生み出したりする、という点です。リノベーションとはそのような意味であり、単なる改装であるリニューアルとは一線を画すということです。

### 4. 都市の未来と記憶の継承

旧第一銀行熊本支店の保存に成功して熊本まちなみトラストが発足した20年前と今日と比較して一番大きな変化は、若い人たちがビンテージな建築空間の持つ魅力に共感しているということです。2019年10月25日に明八橋近くの町屋のリノベーションで開業した珈琲店に集まる若い人たちの思い、旧住友銀行支店社屋に寄せる若い人たちの思い、外観は違いますが上通アーケードに2019年6月に開業したオモケンパークも根っこのところで同じような共感があることを感じます。

20年前の旧第一銀行熊本支店の保存のときにもその兆しはありました。そのまた20年前と比べると若者たちがこのような建物を好きになったことに気がついてはいたのですが、手作りの質感が受けているのかな、と思った程度でした。一方、守る側のノスタルジアや懐かしさという一般にはあまりアグレッシブには受けとってもらえない気持ちをむしろ開き直って積極的に打ち出す方法はないものか、という議論のなかから「記憶の継承」というコンセプトが捻り出されたように思います。しかし、現在、リノベーションに取り組む若い人たちを見るにつけ、もっと異なる次元の「記憶の継承」が起こっているような気がします。

近代化遺産という少し昔の半過去の建築物が街なかにあること、すなわち故郷を忘れないための生活空間を人々が持つことが、中心市街地の活性化や都市の持続可能性のために不可欠であるという信念を持ってこれまで取り組んできましたが、もうすこし広く、おおらかに活動していくべきかと思う今日このごろです。